

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム静園
(ユニット名)	ユニット静雲
所在地 (県・市町村名)	南島原市口之津町乙3476
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 20 年 1 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を職員全体で把握するため、職員同士で話し合い簡略にまとめた理念を、目の届く場所などに貼って心がけるように努めている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は運営理念を理解し、入居者の尊厳を守りつつ、個人個人にあったケアに努めている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	今年度より地区会に入り、地域活動にも協力出来る体制づくりに努めている。独自に制作した新聞に活動内容や職員のコメントをいれるなど、地域の人たちへ静園がどのようなホームかを知ってもらえよう取り組みをおこなっている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	敬老会や町のイベントなど、活動には積極的に参加している。その時に、職員から地域の人へ挨拶などをおこない、職員同士でも地域の人との交流を図っている。しかしながら、近隣に家が少ないため、日常的なつきあいが満足に出来ているとは言い難い		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方から、野菜やお花などを頂いたり、敬老会や運動会など参加している。地域の人と馴染みの関係が築かれつつある		今後は鑑賞するばかりではなく、作品を出展したり、地域活動には事前準備などから積極的に参加できるように努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症や感染症などの勉強会には積極的に参加している。地域の高齢者との話し合い等は、現時点では行っていない		今後は、看護師や介護福祉士が意欲的に、地域の高齢者にも、得てきた知識を伝える機会を話し合い、地域の人たちとの交流に役立てたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を箇々に記入してもらい、それに伴って管理者と職員で個別の話し合いの場をもうけている。その後、全体で意見を交換し、改善すべき課題等を全体として取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合ったことは、全体会議において職員に伝え、それに伴って今後の方針を話し合っている		今後は、更に多数の家族からの参加を呼びかけ、会議以外にも集まれる機会をつくれる様に努めたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主要の勉強会・会議等には積極的に参加しており、サービスの質の向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会等には積極的に参加している		職員の中には制度等について、ほとんど学ぶ機会を持っていない職員もいる。今後は施設内において制度等の勉強会を開き、スタッフ一人一人が知識として理解し活用出来るように努めたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・抑圧等については、理念に従って行っていない。必要時のマニュアルはあるが、職員は身体的拘束・虐待等は行わないことを常に意識するように努めている		虐待については言葉による暴力、入居者同士のトラブル時における職員の対応、言葉かけなども日頃より意識・徹底できるような話し合いや勉強会を開き意思の疎通もはかれるように努めたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を結ぶ際には、介護支援専門員をはじめ介護主任・事務長が専門分野を担当し応答する。いつでも家族の相談に対応出来る体制づくりに努めている</p>	<p>契約書並びに同意書は家族が納得されるまで話し合いの場を持ち、契約を交わし署名を頂いている</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者においては、職員が常に声掛けをおこない、何時でも意見を言いやすい環境作りに努めている。また、玄関先には電話を置き、いつでも外部と連絡がとれる体制を取っている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態については、一ヶ月に一度、家族へのお手紙の中で現在の状況や、暮らしぶりはお伝えしている。金銭管理においては、家族がホームに来られた際に、ご確認いただき毎回ではないが確認印を得ている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に説明をおこない、第三者並びに専門機関等への連絡先を知らせている。ホーム内には、それら機関への連絡先を掲示してある。また、玄関先には意見箱を設置してある</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議や全体会議を毎月行なう中において、施設長が職員の意見を聞き機会を設けている。また看護師が常勤しており入居者の状態の変化に対して、職員の意見を取り入れ、柔軟な対応がとれる体制をとっている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態変化の把握に努め、情報を共有化することより適切な対応を心掛けている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設長も含め、管理者とスタッフで納得の出来る話し合いを行い、入居者並びに御家族が不安にならないような配慮を考え異動等はなるべく行わないように努めている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア研究会や勉強会においては強制ではないが、常に声掛けや掲示等を行っている。会議などにおいても、必要性などを伝え職員の参加を促している		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会や、医療連携等の取り組みを通じて、横のつながりは以前よりも築かれてきている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会議等においては、毎回、司会・進行・書記等を変え、スタッフ全員が意見を出しやすいような環境づくりに努めている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	シフトを作成する前に、休み希望や本人の体調などを事前に届け出て貰い、その希望を出来る限り考慮しながら、一人一人の負担が減るように努めている		資格や希望する勉強会には、日時や場所等を出来る限り早く教え、積極的に参加できる機会をつくる
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者が入居される前に、本人とお会いし体の状態や生活歴を聞き、介護主任や介護支援専門員、又かかりつけの病院と密に連絡を取り合いながら、出来る限りご本人の意見を尊重した環境づくりに努めている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各専門分野、医療・経済面等について事前に話し合いの場をもうけ、出来る限り家族が意見を言いやすいような環境づくりに努めている。困ったことがある時は、その都度に話し合いの時間をつくり、家族との信頼関係は築ける様に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、家族・本人と面談をおこない記録を職員に伝え、一週間以内にカンファレンス等で施設全体としての対応に努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境づくりとして、タンス以外のご本人が今まで日常で使用されていた、馴染みの物を使用してもらう。家族には一ヶ月の間は出来る限り施設に来てもらえる様な声掛けを心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや掃除などは、本人の調子に合わせて声かけを行い、出来る限り一緒に行ってもらう		地域の人たちに、昔の歴史や歌などを学ぶ機会をつくる。それらを入居者との会話やレクリエーションの中でもっと活かしていきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一ヶ月に一度のお手紙の中に、担当職員が行事等のお知らせ、本人の日常のご様子など詳しく伝えるようにしている		今後は、お手紙の中に思い出の写真などを同封出来ればと考えている
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病院・外出等は、家族の負担にならない程度で、家族に行きついで貰えるような声掛けをしている。買い物等は、職員と家族で一緒に行けるような機会をつくっている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が望まれる場所(美容院・買い物・お寺)などは、定期的に出かけられるような体制づくりに努めている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の尊厳を大切にしながら、出来る限りみんなで楽しく生活できるような空間づくり、食事の配置などに配慮している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時や自宅復帰時には、定期的に面会を行っている。また、家族からの電話相談等にも応じている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や、家族との話し合いをもとに介護支援専門員を中心として、介護・看護の両面から話を聞き、その人らしい生活が送れるように努めている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	通院・生活の記録等を残し、連絡ノート・申し送りなどで職員全体で入居者一人一人の把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員でカンファレンスをひらき、本人の生活歴や、家族との話し合いをもとに介護支援専門員を中心として、介護・看護の両面から話を聞き、その人らしい生活が送れるように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思を尊重し、家族の意向に配慮しながら、介護支援専門員を中心に職員全員で、必要に応じたケアのあり方を話し合って作成している		担当は決めているが、実際には限られた職員からの提案がほとんどである。今後は、担当者がもっと責任感を持ち、その人らしさを活かせるような意見が担当者から出てくるようなチームケアに取り組みたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員も意見を出し合い、計画を作成している。家族にも意見を求め、計画書には更新の度に同意を貰っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録や申し送りノートを見ながら、入居者一人一人にあったケアのあり方を話し合い実践している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月二度のお坊さんによるお話、ボーイスカウト・保育園の行事参加など、事業所の特色を活かした支援に努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティア・学校関係・消防署等の協力を得られている		今年度は中学生の職場体験や島鉄電車の旅など、地域のさらなる協力を得ながら支援を行いたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、他の介護支援専門員や看護師長などと話す機会をもうけ、入居者の意向に添えるようなケアのあり方を協力しながら支援できる体制を築いている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	何時でも連絡が取れ、協働出来る体制づくりが築かれている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を尊重し、看護・介護の両面から適切なアドバイスが出来る体制を築いている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医ではないが、職員の健康面のアドバイスや必要に応じては往診など行って貰える協力体制が築かれている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しており、各ユニットごとに一名の准看護師が入居者の支援を行っている		看護師が常勤していることで、看護師に頼り切ってしまう傾向がある。職員全員が入居者の健康状態に気をつけ、必要に応じた緊急の対応が箇々で出来るように努めたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院・手術時には、主任が密に病院等と連絡を取り合いながら、家族に説明を行い、今後の予定などを病院等と話し合える体制を築いている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、本人・家族に説明を行い、看取りに対する理解を求め同意書を作成している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関とは状態に応じて、往診等が直ちに行える連携が築かれている		今後も、重度化や終末期における勉強等で知識を深め、ホームで出来る限り生活できる支援をDrを含めた支援が出来るように努めたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や市町村関連機関と、その人に一番適した環境を提供出来る話し合いを行い、本人や家族が不安にならないように配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録、書類等は個人で持ち出さないように事務所で管理している。個人情報等については鍵を掛け、一部の人間しか開けることが出来ないように配慮している。</p>	<p>日常の記録等も、個人の情報を取り扱っているという意識を職員全体が持ち、机などに、そのまま置かないように声掛けを行い心がける</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人にあった声掛けなどを行い、安らぎを感じながら暮らせる支援に努めている</p>	<p>これからも、帰宅願望のあらわれる方や、行動が不安定なときの対応など、本人の尊厳を傷つけない支援が出来るような支援の向上に努めたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念に基づき、その人のペースに気を配り、行きたい場所ややりたいことなど生きる意欲を引き出せるケアに努めている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望に添って、馴染みのお店や美容院に行ったり、月一度、施設内において、知り合いの美容院のかたに来て貰うなど、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるように努めている</p>	<p>洋服などは、毎日、本人の好みに合わせて着て頂いている。ボランティアでエステの方に出張してもらい、顔・手のケアなどを行って頂いている</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も同じ食卓に座り、ご飯を一緒にいただくように配慮している。準備等は本人の能力に応じて声掛けを行い、時間にゆとりを持たせ、本人のペースで野菜を切るなど手伝っていただけるように工夫している</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やおやつ等に決まりは設けず、本人の体調や状態に配慮しながら、出来る限り好きな物を頂けるように支援を行っている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録等を残し、個人のパターンに合わせた支援を行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の際には、湯ぶねに長くつかりたい入居者は、その希望に添って入浴介助を行っている。夜の入浴は、夜間時の職員が少ないため希望に添えてるとは言い難い		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間体制で、入居者の支援をおこなっている。看護師の指示のもと、出来る限り自然なかたちでの安眠が出来るように努めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌やレクリエーションなど、毎日の生活にはりあいや変化が持てるように支援している		花壇や畑など、作る喜び・育てる喜びなどが感じられる支援を今後、考えていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の希望に添ったかたちでの金銭管理を心がけている。家族には施設に訪れたときに、記録などを見てもらい、領収書等をお渡しして確認印を頂いている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	頻繁な場合は意に添えない場合もある。しかしながらカンファレンスなどで、その対応などを職員間で話し合いつつ支援出来るように努めている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	島原鉄道や足湯など職員で計画を立て、普段は行けそうもないような場所に多く行く機会を作ることが出来た		今後は、家族も一緒に参加できる行事なども企画し、手紙や電話等で知らせ家族参加できるような呼びかけも心みたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関先に電話を置き、希望される方は部屋にも電話を置けるような体制を整えている。年賀状など、特別なときには職員と一緒に手紙を作成するような支援を行っている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が来られたときは、椅子などを用意し、なるべく入居者との時間を楽めるように考慮している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルはあるが、実際に拘束を行った事実はない。身体拘束について、正しい知識と理解を職員全体で更に深められるように、勉強会等を引き続き実施したい		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の貴重品は事務所の金庫に保管しており、夜間における危険物のある倉庫と玄関のみ施錠を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が意識しながら、声を掛け合い事故が起こらないように努めている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の個別の状態に応じたカンファレンスや話し合いを行いながら取り組んでいる。洗剤・刃物・薬等の保管場所を定め、管理しているので出来ている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの対応マニュアルを作成している。緊急連絡通報マニュアルなどは職員の見える位置に貼ってある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会等でも、緊急時の対処法など訓練を重ねている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練等は重ねているが、近隣に民家が少ないため、不安がないとは言えない		今後は、夜間一人勤務時の対応など、訓練方法にも工夫を加え、より実践に即した形での訓練を実地しながら、職員の不安の軽減に努めたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が来られたときなどに説明を行い、家族の意見や要望も聞きながら、入居者の尊厳を大切に対応策を考えている。緊急時にはすぐに家族と連絡をとり同意を得ている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師を中心に毎日の身体チェックを行い、アドバイスを行っている。また、夜間なども緊急を要する場合は、連絡し体調管理を行っている		重度化や看取り看護など(高度な介護を必要とする場合の)ケアや対応などを話し合う。また、入居者の事例をもとに関連した身体能力(病状など含め)勉強会を行う。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の内服が確実に管理できるよう、記録とともに処方箋を保管し、性格に内服出来るよう工夫している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食物繊維などバランスを考えながら食事ケアに取り組んでいる。また、運動や腹部マッサージなど指導し、出来る限り、内服に頼らない排便コントロールが行えるよう説明している。しかし、入居者の身体状況にもより、便秘がちな入居者もあるため、内服も併用しながら実施している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔洗浄の呼びかけや、介助をおこなっている。また、入れ歯などは衛生面に十分注意し、週1回は洗浄剤で消毒をおこなっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューのアドバイスをもらい、バランスを考えた食事に取り組んでいる。食事に好き嫌いがある場合、不足しないよう、食べやすい物で補うなどの工夫を行っている。また、食事量もチェックを行っている。水分も毎回量を記載するようにしており、脱水等ないようにチェックしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを施設独自に作成し、報告経路や、対応方法など詳細に記載している。また、週1回施設内の消毒や日頃のうがい・手洗いの基礎を徹底できるよう、指導している		感染症の理解を深め、実践出来るような学習会を行う
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具は次亜塩素酸ナトリウムでの消毒、洗浄を行い、食材も十分流水で洗うなどして調理している。また、取り置きなどせず、毎食調理し、期限もチェックしたうえで保存している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を置くなど工夫している。清潔感を出すために玄関先にはあまり物を置かないように努めている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花・思い出の写真・手づくりカレンダーなどを作成している。季節感や温もりの感じられる空間づくりに努めている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや畳の場所に花や工作物、新聞などをおいて、自然と集まれるような工夫を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	タンス以外は本人が今まで使われていた馴染みの物 を利用して頂き、部屋に畳を置くのか、ベットを置くの かなどは、本人の意志を尊重しながら、リスク面を家族 と職員とで話し合った上で決めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	掃除の時や、天気の良いときなどは本人に確認をとっ た上でこまめに行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	危険箇所には手すり、全面バリアフリーなど、安全かつ 本人らしい生活を支援できるように努めている		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	円背になられた入居者の居室の前には、見える高さに 名前を貼ったり、お部屋ごとに手作りカレンダーを貼っ たりしている。移動時に障害物や危険物を置かないよ うな配置などにも工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	建物の外周に季節の花や入居者が家より持ってこられ た花などを植えている		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設においては母体であるお寺を中心においた、"命・生き生きとした生涯を自然のままに"を实践出来るようなケアを提供している。希望される外部へのお寺行事やお寺の婦人会による催し物、関連した保育園児の慰問、地域のボーイスカウトやカブスカウトたちとも関わりやすい環境が築かれている。自然環境にも恵まれており、居室等からは絶景の白浜海岸周辺が広がり、ゆっくりとした時間を過ごせる。このような環境のなか、これからも現状に満足せず、理念に基づいた入居者中心のケアの实践に取り組んでいきたい